



研修体験談

「在宅医療について」

関門医療センター卒後臨床研修
初期研修医2年目 中野 紗希

掲載日:令和5年09月25日



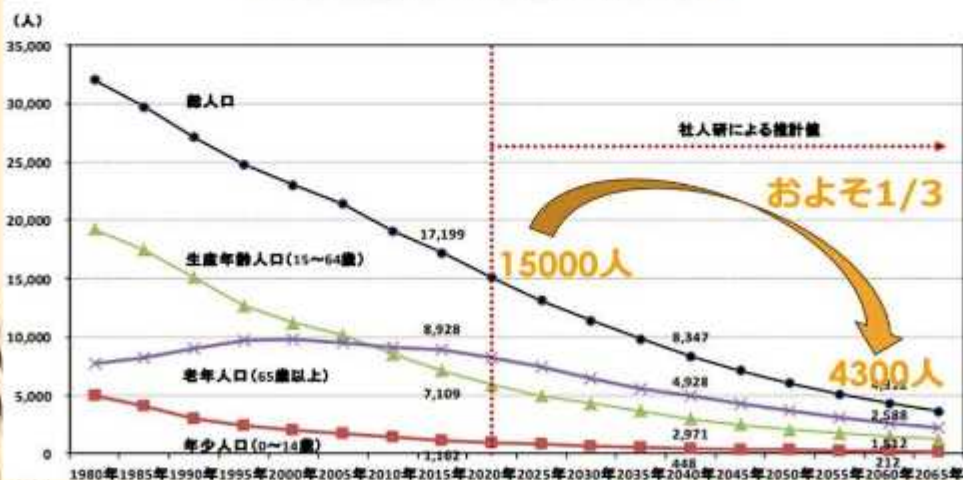
自己紹介

- 山口県山陽小野田市出身。
令和3年度、山口大学卒業。
- 小学校～大学までバスケットボール部に所属。
- 大学卒業後、関門医療センターに就職。
関門海峡フルマラソンに医師ランナーとして参加。
その後周防大島ロードレース大会に出場して、
周防大島の魅力にとらわれた。



周防大島町の人口推移

■ 年齢3区分別人口の推移と将来推計 ■



周防大島町の高齢化率

周防大島町の高齢化率の推移



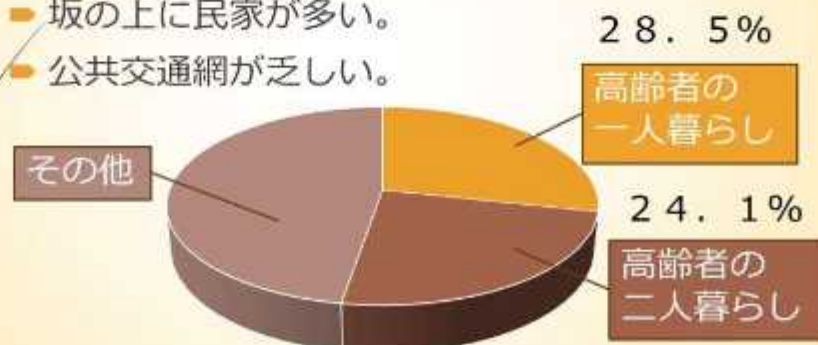
※高齢化率：総人口に占める65歳以上の人口割合（％）、年齢不詳を除いて算出

※図中の線の赤字は、平成20年3月公表の「国勢人口調査」に基づく当該地域の高齢化率

全国市町村で18番目に高い！

周防大島町の暮らし

- 高齢者の1人暮らしまたは2人暮らしの世帯が多い(合計50%以上)。
- 老々介護が多い。
- 坂の上に民家が多い。
- 公共交通網が乏しい。



➡ 免許返納すると、通院が困難

患者の身近な場所で連携する

病院完結型...病院ですべてを完結する



地域完結型...地域内で多施設・多職種が連携する



在宅医療とは

病院や診療所への通院が難しくなった時、自宅など「生活の場」に、医師や看護師などが訪問して、診察や治療、健康管理などを行うこと。

生活の場とは

自宅だけでなく、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム、グループホームなど。



在宅医療の対象となる方

- 足腰が不自由であったり、心臓や呼吸器の病気で少し動くと息切れがして通院が困難
- がんなどの治療を自宅や施設で行っている
- 神経や筋肉などの難病で、人工呼吸器や自宅での医療処置が必要
- 認知症のケアが必要
- 自宅で緩和ケアを行いたい
- 自宅で最期を迎えたい



自宅で「最期」を迎えたい

人生の最期をむかえるとき生活したい場所



死亡の場所の推移



在宅医療の理想

患者本人やご家族が望む
「生活の場」で最期を迎える医療

- ・病院と遜色ない医療資源や医療技術の提供
- ・多職種協働
- ・地域連携
- ・24時間、365日



往診と訪問診療の違い

往診とは

緊急時など必要時に行う診察。
容体が悪化したときの対応になるので即入院
となることがある。



訪問診療とは

日にちを決めて定期的に行う診察。
定期的に訪問し診察するため、容体悪化の予防や
施設にいながらの長期療養も可能になる。



在宅医療を支える人たち



訪問診療



- バイタルチェックや薬の処方や点滴、経管栄養、人工呼吸器の管理など
- 福祉施設にも訪問
- 介護するご家族へのケア (新たなサービスの提案)



訪問看護

- 体温や血圧、脈拍、呼吸などをチェック、状況に応じて主治医に報告する。
- 入浴介助
- 褥瘡の処置
- 寝たきりの方の排泄介助



訪問リハビリ

- 歩行、寝返り、起き上がり、立ち上がり、座るなどの機能訓練や筋力トレーニング
- 食事、排泄、着替えなどの生活動作訓練
- 生活環境の調整（ベッドの高さなど）
- 福祉用具の活用へのアドバイス



福祉用具



Take home message

- 高齢化が進んでおり、高齢者だけの世帯が増えている。
- 病院完結型から地域全体完結型で支える。
- 「最期」を「生活の場」で迎えるために在宅医療の充実が必要。
- 在宅医療で大切なのは「多職種連携」と「オーダーメイド」！

多くの方々が患者さんの希望を叶えようとそれぞれの役割を全うしている。

おまけ





ご清聴ありがとうございました